グローバル時代における ICT 政策関するタスクフォース
電気通信市場の環境変化への対応検討部会
「ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数検討 WG」（第５回会合）
議事要旨

1.　日時

平成 22 年 7 月 13 日（火）　17:00～18:30

2.　場所

総務省 8 階　第 1 特別会議室

3.　出席者（敬称略）

（１）　構成員（主査を除き五十音順）

徳田主査、伊東構成員、服部構成員、藤原構成員、横澤構成員

（２）　総務省

内藤総務副大臣、桜井総合通信基盤局長、吉田電波部長、山田総務課長、渡辺電波政策課長、竹内移動通信課長、豊嶋移動通信課推進官、坂中移動通信課企画官

4.　議事

（１）　意見交換

（２）　その他

5.　配布資料

資料番号	資料内容
資料５－1	「ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見募集」の主要意見（概要）
資料５－2	ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関して寄せられた意見の概要（ヒアリング・意見募集における主な意見の概要）
資料５－3	携帯電話用周波数の状況について
資料５－4	APT 無線通信フォーラム（AWF）における 700MHz 帯の利用に関する検討状況

6.　議事要旨

（１）　内藤総務副大臣あいさつ

（２）　意見交換

(ア)事務局からの説明

豊嶋移動通信課推進官より、資料 5-1、5-2 に基づき、これまでのヒアリングや意見募集等において寄せられた主な意見のとりまとめ状況について説明が行われた。

竹内移動通信課長より、資料 5-3 に基づき、各国における 700/900MHz 帯の利用状況につ

いて説明が行われた。

坂中移動通信課企画官より、資料 5-4 に基づき、APT 無線通信フォーラム（AWF）における 700MHz 帯の利用に関する検討状況について説明が行われた。

(イ)事務局からの説明を踏まえて、次のような質疑応答があった。

- ✓ 日本及び海外ベンダーの市場展開の思惑があり、全世界で使える iPhone のようなものが例外的で、Xperia のように地域ごとにそれぞれの型番の携帯端末が流通するならば、国際ハーモナイズの意味はどこにあるのか。
  - ➢ 「世界中で使用可能」という戦略のベンダーと「セグメント化」して販売する戦略のベンダーの両方がいると認識している。ただし、Xperia がきちんとセグメント化して販売されているかどうかについては後日確認させて頂く。

- ✓ 時間軸上の問題として、そろそろ段階的に周波数ガバナンスのマネージメントの発展をイメージする必要がある。スムーズな移行を念頭に置きながら、第一段階目は 2012 年、その次が 2015 年、またその次が 2020 年というイメージでよいか。
  - ➢ まさに構成員の皆様で御議論頂く点。できるだけ影響がないスムーズな形で、現実的な案が作れるかどうかが重要。

- ✓ AWF では、View1～5 が議論され、最終的に View4 が残っているということか。
  - ➢ View4 をベースにさらに検討を進めていこうということ。現在アップリンクとダウンリンクの配置、ガードバンド、センターギャップについて検討中。

- ✓ 韓国における 700MHz 帯は白紙の状態なのか。
  - ➢ View3 は、韓国から提案があったものだが、これでフィックスというわけではなく、あくまで案の段階。

- ✓ 国際ハーモナイズとして、800MHz 帯の再編と同様、700MHz 帯でも韓国との干渉問題のケアが必要。具体的にはいつごろ見通しが得られるか。
  - ➢ 早ければ今年～来年の初め頃。韓国の状況次第。

- ✓ 今後はアジア各国との協調バンドも重要。700/800MHz 帯、1.7GHz 帯における中国、韓国の整合性はどうなっているのか。
  - ➢ 中国については、資料 5-4 の 6 ページ目のとおり、少なくとも 2015 年までは IMT による使用は開始しないことを明言。先のほうがまだ見えない状況。

- ✓ どの View も 700MHz 帯は、低い方がダウンリンク、高い方がアップリンク。他の帯域と使い方が違うが、これは放送業務との干渉を考慮しているからなのか。
  - ➢ 基本的には、放送との共用条件を考えたときに、ダウンリンクを下のほうが良いと、特に欧州で議論があり、それを踏まえた提案と理解。

- 前回のAWFにおいて、韓国に対して、「日本では、下がアップリンク、上がダウンリンクのほうが良い」ということを説明。韓国はまだ方向性が決まっていないとのこと。次回の韓国開催のAWFにおいても、再度聞きたい。

✓ 次回のAWFはいつか。
- 今年の9月13日～16日である。

✓ AWFでは、日本はどういう意見を述べているのか。
- 2007年の時点で、700/900MHz帯の基本的な考え方を取りまとめており、その状況をAWFへ報告。その後、基本的に情通審で決めた方針を中心に対応。

✓ ITU-RとAWFとの整合性はどう位置づけられているのか。
- 基本的にITU-Rで、全世界における携帯電話用周波数を極力共通化していくための勧告を作成。その中でも700MHz帯については、AWFにおいて、アジア9カ国で実際どう使うか調整中。このAWFの検討結果がITU-Rへ報告され、勧告へ反映。

✓ 米国や欧州はITU-Rのガイドラインには沿っているが、結局各エリアでは違うことをやっているということか。
- 米国と欧州はそもそも違う使い方をして、今に至る。日本国内においても、周波数配置として、米国派の意見、AWF派の意見があり、どうすべきかというのも議論頂く点。

✓ AWFでは、デマンドサイドの議論というよりは、今ある空き周波数の切り分けの議論が主体のように感じるが、それは正しいか。
- 仰るとおり。しかし、その議論の前に、ITU-RあるいはWRCにおけるIMT用周波数の特定段階で、将来の周波数需要に関して世界的なデマンドサイドの議論があったと理解。

✓ 資料5-4の最後、地域同士でこれだけの差があるのは、まだ検討が進んでいないのか。あるいは、使い方が違うということか。
- 第一地域、特に欧州では、色々な国が近接しているため、多くのチャネルが必要であり、デジタル化の際に、「790MHzまでは放送業務で必要」という議論の結果だと理解。

✓ 日本の場合、698～806MHzをWRC-07で新規に特定とあるが、現在放送業務はもう少し上の周波数も利用しているのか。
- 日本では、710MHzまでは放送業務で利用するということ。下の5.313Aの脚注中、「この周波数帯が分配されている業務のアプリケーションによる使用を妨げるものではなく」のとおり、IMTに特定されたとしても、IMT以外の業務でも使用可能。

✓ 実現可能性に関して、事務局側は、移行の際のコストや時間等の試算を行ったのか。

- 事業者及びベンダーにコストについて尋ねたが、多くは前提条件あるいは具体的な周波数の特定が未定のため、試算は困難という回答。今後そういった点も踏まえながら、再度精査等行いつつ、最終的なボリューム感も含めて検討したい。

✓ この WG を主導している「国際ハーモナイズ」という概念は、誰もが反対しにくいものであるが、ご説明を伺っていると、どうも国際的に唯一の方向へ向かっているわけでもなく、一種の飾り文句のようにも思える。また、かつて情通審では、「周波数ひっ迫のため、早急に地デジに移行しなければならない」ということもあって、周波数割当てについてかなり濃密な議論を行ったわけである。そのような切迫した状況であるにも関わらず、仮に、700/900MHz 帯の割当てを 2012 年ではなく、2015 年まで延期するのならば、「それほど重要な国際ハーモナイズとは一体何なのか」というところまで戻って議論すべきではないか。

✓ 日本は、マルチバンド化への世界の進展のスピードを予測できなかったことが GSM に乗り遅れた大きな理由。今後は、700/900MHz 帯における世界展開も含めたマーケットを狙うために、技術面だけでなく、きちんと精査し、どういう形が望ましいかについても考える必要がある。

✓ 「先導的な役割」というキーワードを今後の検討に付け加えて頂きたい。デマンド側の視点に立って検討し、モバイルブロードバンドの利用に関して世界の先頭を走っている日本が創る将来の電波利用大国のイメージ、利用のイメージというものを大事にしていくべき。

✓ 日本が先導するというキーワードからすれば、ITS や HDTV 等はある意味で日本が先頭を走っている分野である。したがって、「これらを考えずに携帯関連だけが発展すれば良い。」ということにはならないと思う。要するに、バランスが大事。

(ウ)今後の予定

次回会合については、おって事務局より連絡することとなった。

以上